

待望の「中医基礎理論」新教材 ついに刊行！

中医学の基礎

平馬直樹・兵頭 明・路京華・劉公望／監修

B5判 上製 340頁

日中専門家の徹底した共同討論によって完成！



読みやすく、わかりやすい
画期的な基礎教材！
日中共同編集！

●最初に学ぶ最も大切な基礎科目

中医学基礎理論は、初学者が中医学に入門したときに最初に学ぶ最も大切な基礎科目です。初めて学ぶ人は、なるべく早く、これを無条件に覚えてしまう必要があります。基礎のあとはすぐに臨床の世界が始まります。基礎だけにこだわっていると、いつまでたっても臨床に入れません。臨床に入ってから、また繰り返しもどって学習するのが、この基礎という学科です。

本書は初学者が無条件に覚えてもらえることを念頭において、正確さと読みやすさを最大限に追求しました。10回にわたる討論を重ね、既成教材のあいまいな表現や論理の矛盾を、中医学の原点にたって徹底的に修正し、読者に安心して学んでいただける教材をめざしました。

●姉妹編『針灸学』[基礎篇]の「中医学」版

本書の底本となった『針灸学』[基礎篇]は、1991年発行以来すでに5版を重ねる針灸界のベストセラーです。同書の発行と同時に、多くの読者から「中医学」版が欲しいという強い要望が寄せられていました。漢方用の「中医学」版を発行するために、今回新たに平馬直樹先生と路京華先生に加わっていただき、強力な執筆陣を形成、原則問題とともに細部問題についても徹底的な討論を行い、ついに読みやすく充実した画期的教材が完成したわけです。

定 価 6,200 円 (税込・送料 450 円)
(1996年3月31日までに当社へ直接ご注文いただいた場合、送料は当社が負担致します。)

ご注文は FAX 専用フリーダイヤルで 今すぐに FAX 0120 - 727 - 060

〒272 千葉県市川市宮久保
3-1-5

東洋学術出版社

電話 (0473) 71 - 8337
FAX 0120 - 727 - 060



平馬直樹先生
東京臨床中医学研究会事務局長



兵頭 明先生
(学) 後藤学園中医学研究室室長



路 京華先生
中国中医研究院广安門医院
客員副教授



劉 公望先生
天津中医学院教授

日本の伝統医学教育の輝かしい幕開け！ 大学教育に相応しい充実した内容！

最近の「日経メディカル」で、全国の医科大学の3分の2の大学が伝統医学の導入を希望しているが、教える人材と教材がないことがネックになっているという報道がありました。しかし、世界にはすでに「現代中医学」という非常に優れた教育システムと教材が存在しています。現代中医学は、個別性と多様性を特徴とする伝統医学を、現代医学に適応するために再編したマス教育のためのシステムです。

現代中医学を学ぶことによって、より効率的に、より短期間に日本の伝統漢方を修得することも可能になります。また、より科学的に医学研究を展開することも可能です。本書はそのような期待に応えうる充実したテキストであります。

●本書の構成

- 第1章 緒論
- 第2章 中医学の基本的な特色
人体の見方・陰陽五行学説・運動する人体・独特の診断治療システム
- 第3章 中医学の生理観——気血津液・臓象・経絡
- 第4章 病因病機
病因…六淫・七情・飲食と劳逸・外傷・痰

- 飲と瘀血
病機…邪正盛衰・陰陽失調・気血・津液の失調・経絡病機・臓腑病機・五臓の病機・六腑の病機・内生の風寒湿燥火の病機
- 第5章 診察法 [四診] ——望診・聞診・問診・切診
- 第6章 診断法 [弁証] ——八綱弁証・六淫弁証・気血弁証・臓腑弁証・経絡弁証・六経弁証・衛気營血弁証・三焦弁証
- 第7章 治則と治法

五臓

心・肺・脾・肝・腎を総称して五臓という。五臓間の各種の生理機能は、相互依存・相互制約の関係により、協調しあいバランスを保っている。これらは陰陽五行学説の理論を用いて説明することができる。以下で各臓腑の特徴について紹介する。

① 心

心の概略	主な生理機能	血脈を主る 神志を主る
	五行との照応関係	五志：喜 五液：汗 五主：脈 五華：顔面 表裏：小腸 五竅：舌

1 心の主な生理機能

【1】血脈を主る

血脈は、血液が運行する通路である。「心は血脈を主る」とは、血液を推动して脈中に運行させ、身体各部を滋養するという心の機能を説明したものである²⁾³⁾⁴⁾。

血脈を主るといふ心の機能は、心気的作用により行われている。心気が旺盛であれば、血液はたえず脈管中を運行し、血中の栄養物質は臓腑・組織器官および四肢百骸にうまく輸送される。逆に、心気が不足したために血液の推動が弱くなると、顔色がすぐれなかつたり⁵⁾、脈が細弱となる。またこのために血行に障害が生じると、顔や唇が青紫(チアノーゼ状)になり、脈が細弱となることもある。

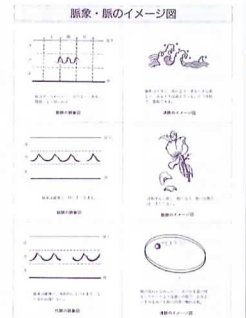
これらの考えにもとづく、吐血・衄血・胸痺・心悸などの心・血・脈系統の疾患に対しては、心を病位として治療すればよいことがわかる。

【2】神志を主る

「心は神志を主る」といわれているが、また「心は神を蔵す」とか、「心は神明を主る」

【第4回】 中医学の病因病機

- 陰陽五行学説を基とし、自然界の万物の運行を説明する。
- 気血津液の運行を説明し、人体の生理機能を説明する。
- 病因病機を説明し、診断治療の基礎となる。
- 臓腑病機を説明し、臨床応用を説明する。



やさしい中医学入門

関口 善太著 A5判 並装 200頁 2600円(¥310円)
入門時に誰もが戸惑う中医学の特異な発想を、爽やかに楽しいイラストと豊富な図表で親切に解説する。3日間で読める中医の入門書。